

## は し が き

本研究所は、関西大学における社会科学系の研究所として1958（昭和33）年4月に設立されました。この50有余年の歴史と伝統を背景にして本研究所は、経済社会の高度化・国際化・IT化の進展と学術研究の新しい役割を意識しつつ、産官学連携のさらなる強化を打ち出し、「社会に貢献する研究所」を目指した事業を進めてきております。2011年度の本研究所の研究プロジェクトとしては、東西学術研究所および法学研究所との共同研究を進める連立型研究班としての「東アジア経済・産業研究班」、本研究所が特色ある研究として継続してきた「関西・大阪」を研究テーマとする「大阪大都市圏地域経済研究班」、この2つの重点領域研究班以外にも「財政・社会保障制度研究班」、「地域社会と情報環境研究班」、「子供の安全とリスク・コミュニケーション研究班」を組織して、研究活動を展開しています。

本研究所は、このような研究班に属する研究員が中心となって、また外部の有識者の協力も得て「産業セミナー」、「公開講座」、「公開セミナー」を開催し、研究所の研究成果の一端を広く社会に還元し、公表する活動をおこなっています。「産業セミナー」は、1962年（昭和37年）から開始され、今日では大阪商工会議所、大阪市工業会連合会、大阪市産業経営協会、株式会社りそな銀行からの後援を得て、企業経営者、スペシャリスト、企業・行政関係者、社会人を主たる対象者として開催しています。報告者は本研究所の研究員が務めており、とくにりそな銀行からは本店地下2階の重厚で風格ある講堂をご厚意で使用させていただいています。このセミナーは190回を超え、2012年には50周年を迎えることとなります。また「公開講座」は1980年（昭和55年）より、広く学生、社会人を対象者として千里山キャンパスで実施しております。この「公開講座」は、本研究所以外の外部の研究者や実業界で活躍されている識見豊かな実務家を講師に迎えて「産業セミナー」とは違った性格を持たせています。この「公開講座」もすでに190回を超えています。そして「公開セミナー」は各研究班の研究員を中心に大学院生や大学の内外の研究者を交えながら、比較的少人数で集中的な議論がなされるような研究会的なセミナーとなっています。このセミナーも学内外に公開しております。

さて今年度の『セミナー年報』は、2011年度に実施された第190回から第194回の5回の「産業セミナー」の報告者、第193回から第195回の3回の「公開講座」の講演者、さらに7回の「公開セミナー」のうち1回の報告者がそれぞれの講演内容をベースとして加筆修正された

玉稿から編集されています。いずれの論稿も素晴らしい魅力ある論文です。「産業セミナー」の論文は各研究班の研究成果の一端が報告されています。「公開講座」の論稿は、この数年会計専門家だけではなく、企業経営者にとって重要な問題になっているIFRS（国際会計基準）の日本企業への影響、また最近のNHKドラマで話題となった松下幸之助の「魁」としての役割やその「志」の普遍性などの講演をまとめていただきました。どちらもパワーポイントを活用され、貴重な映像や写真を提供していただいた当日の講演を思い起こさせる興味深いものです。さらに今回の年報には日本管理会計学会と共催で開催した公開講座の講演を英語で論文に仕上げてくださいました。関西大学の海外オフィスもヨーロッパだけではなく、タイ、中国上海、台湾高雄にも設置され、また新たに日本語別科も設立され、さらなる研究と教育のグローバル化を進展させようとしている中で、本研究所の年報にも機会と条件が整えば、英語論文を掲載していこうと思っております。なお本年6月には復旦大学日本研究センターと共同で、第3回復旦・関大経済フォーラムを上海で開催する予定です。

読者諸氏には、以上のような2011年度の本『セミナー年報』に収められた諸論稿のそれぞれバラエティに富み、文章のタッチも違っているところも楽しんでいただければ幸いです。執筆者各位のご努力に対して、あらためて厚くお礼申し上げます。

ところで本研究所は、研究成果の公表としては、『セミナー年報』の他にも『研究双書』、『調査と資料』を公刊しております。そしてこうした本研究所の活動についてはWebサイト (<http://www.kansai-u.ac.jp/Keiseiken/index.html>)でも紹介しており、過年度の出版物の論文もご覧いただけるようにしております。一度アクセスしていただければ、新しい知見と知的刺激が得られるのではないかと考えております。

今後とも、本研究所に対して変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2012年3月

関西大学経済・政治研究所

所長 水野 一郎